

第 2 回 西脇市立学校学習環境規模適正化地域会議（西脇中学校区） 意見概要

テーマ：①望ましい学習・生活集団規模について ②望ましい指導体制について

【A グループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各 1～2 名

| No | 意見 |
|--|---|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 01 | 国が示す学級規模・学校規模の標準は、小学校 35 人学級、中学校 40 人学級となっている。 |
| 02 | 国が示す学校規模の標準は、小中学校とも 12 学級～18 学級規模となっている。 |
| 03 | 子どもの人数が減少すれば学級数が減少し、先生の数も減少する。 |
| 04 | これからの人数の変化を見ていく必要がある。 |
| 05 | 今後、子供数が益々減少することになれば、統合することも検討する必要がある。西脇小を残すのであれば、日野小は西脇小に統合することを想定する等、ゴールを決めておくことも重要。 |
| 06 | 西脇市として、今後の子ども人数減少を踏まえて、学校の再編案を出して欲しい。 |
| 07 | 大人の世代間の違いによって、考え方・重視したい点などが異なる。 |
| 08 | 子育て世代からすれば、クラス替えができる規模を望む。 |
| 09 | 他地域の適正規模については、どうしても意見が出しにくい。 |
| 10 | 今の日野小規模（学級 25 名程度）は、上級生との交流もありいいのではないと思う。 |
| 11 | 理想的な学級人数は 30 人程度、学年 2 学級程度が理想ではないか。 |
| 12 | 中学校の部活動については、このままでは厳しいのではないか。野球やサッカーなどの集団スポーツが維持できなくなる。（合同チームによる対応、クラブチーム入部等の方法もあるが。） |

【B グループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各 1～2 名

| No | 意見 |
|--|--|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 01 | 日小では、各学年 1 学級 25 人程度。クラス替えの必要は余りないと感じる。 |
| 02 | 1 学級 25 人程度であれば、先生が子どもを見やすいし、人間関係が固定化されるデメリットも無いのではないか。 |
| 03 | 今後、更に大きく子どもの人口が減少すると、判断が難しくなる。（就学前の子どもを持つ保護者） |
| 04 | 地域の思いとしては、学校を残したい。 合併して地域に学校が無くなると、行事ごとの運営が難しくなる。しかし、小規模化すると先生の数も少なくなって学校教育の質が低下する。 |
| 05 | 子ども人数の平準化を図ることはどうか。 |
| 06 | 小学校 6 年間は、学年 1 学級（人間関係固定）となっても、中学校に進めば 1 学年 2 学級以上という環境はどうか。 |
| 07 | 学級の子ども人数が少ないということは、教員からみれば指導しやすい環境である。 |
| 08 | 地域に学校が無くなったら、登下校の問題や地域教育力の低下等を危惧する。 |
| 09 | 西小同様に、日小も残して欲しい。ただ、他の学校と同じレベルの教育ができるのか心配。 |
| 10 | 地域住民の声を十分聞いて欲しい。 |

【Cグループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各1～2名

| No | 意見 |
|--|--|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 01 | クラスは複数必要ではないか。 |
| 02 | 1クラス20程度いた方がいいのではないか。 |
| 03 | ある程度の児童がいた方が人と人の関わりやライバル心などが形成され、社会に出たときに役立つのではないか。 |
| 04 | 少人数では人間関係が固定されることで関係性が決まってしまう、何かがあったときに逃げ場がなくなってしまう危険性がある。 |
| 05 | 少人数でも、少人数であることで子どもの仲がさらに良くなる場合もある。 |
| 06 | 人間関係やコミュニケーション力は少人数でもできる。 |
| 07 | 少人数による教育を希望される場合は、小規模校という選択肢があってもよいのではないか。 |
| 08 | 小規模校の方が合っている子どももいれば、そうでない子どももいる。 |
| 09 | 小規模も大規模もそれぞれメリット・デメリットがあり、バランスが取れるような集団規模が望ましい。 |
| 10 | 英語等、教科学習においては少人数指導のメリットはある。ただ、教科学習以外の学習（人から体験的に学ぶ学習や考え方・生き方等を学ぶ学習は、ある程度の人数の中で揉まれないと学べない。 |
| 11 | 学校行事のことを考えると、ある程度の集団規模（学校規模）がないと厳しいように思う。 |
| 12 | もし統廃合となった場合、子どもの登下校に不安がある。 |
| 13 | 今後の児童生徒数の現状を見ると、この先の状況にはかなりの危機感がある。 |

第 2 回 西脇市立学校学習環境規模適正化地域会議（西脇東中学校区） 意見概要

テーマ：①望ましい学習・生活集団規模について ②望ましい指導体制について

【A グループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各 1～2 名

| No | 意見 |
|--|---|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 01 | クラス替えができる規模が望ましい。 |
| 02 | 小学校では、1 学年に 2～3 クラスはあった方がよいと思う。 |
| 03 | 中学校では、1 学年に 3～4 クラスはあった方がよいと思う。 |
| 04 | タブレット等ハード環境でカバーできる面はよいが、子ども同士の生のふれあい等、実体験でないと学べないことがある。 |
| 05 | 児童・生徒数が多い方が活発な学習ができる。 |
| 06 | この地区で住んだ時から、1 学年 1 学級には抵抗がある。 |
| 07 | 子供のことにに関してクラス替えがないことで、人間関係で大変な時期があった。クラス替えにより、リセットできればと思った経験がある。子どもにも、人間関係で合う・合わないケースがある。 |
| 08 | 子どもの人数が少ないと、どうしてもメンタル面が固定される。そうした際、居り場の無い子どもができる可能性がある。 |
| 09 | 学習に関しては、少人数ということもあり目が行き届いてよかったと思う。 |
| 10 | 東中の野球部が少ないので、クラブチームに入部した。他地区の子どもたちとスポーツを通じて交わり、人間的にも大きく成長した。 |
| 11 | いろんな意見があると思うが、子育てを行っている親の気持ちを優先して考えるべきだと思う。 |
| 12 | 発達段階に応じて、徐々に大きな集団に移行することがいいのではないかな。 |
| 13 | 比延地区の子供数が、これだけ減っていることを知らなかった。地域住民も同じではないかな。 |
| 14 | 地域の活力が無くなってしまうことが心配。児童数の減少という現実を受け止め、何らかの手を打つ必要があるように思う。 |
| 15 | この地域の少子化に関する現実は厳しい。郷土愛だけでは立ち行かないのではないかな。 |
| 16 | 若い人が集まるような地域づくりも考えることが大切。（近隣市町にも同様の取組がなされている） |

【B グループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各 1～2 名 【未入力】

| No | 意見 |
|--|----|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 01 | |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |

【Cグループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各1～2名

| No | 意見 |
|--|--|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 01 | 少人数でもある程度知っていることから安心感がある。 |
| 02 | 少人数だからこそ、先生や地域の皆さんに十分見ていただいているという思いがある。 |
| 03 | 比延小学校や双葉小学校ともに、児童数は少ないが仲良くやっていると思う。 |
| 04 | 高校生になるときに、人数が増える事での不安がある。 |
| 05 | この先の児童数を考えると不安なところもある。 |
| 06 | 児童・生徒の人数が少なくても、子供は育っていくのではないか。 |
| 07 | 英語や数学などの授業では、少人数のほうがメリットあるのではないか。 |
| 08 | 逆に体育祭や部活動などは、人数が少ないことによるデメリットが生じてしまう。 |
| 09 | 部活動などは黒田庄中と合同チームを結成するなど行っており、そのことから学ぶことも多いのではないかと思う。 |
| 10 | 理想は、集団的な行事ができる規模であること。 |
| 11 | 児童・生徒数としては、20人から30人ぐらいが理想ではあると思う。 |
| 12 | 親が求めているものを考えると、ある程度の集団は必要 |

2021. 4. 16 開催

西脇市立学校学習環境規模適正化地域会議（西脇南中学校区） 意見概要

テーマ：①望ましい学習・生活集団規模について ②望ましい指導体制について

【就学前保護者・学校関係者グループ】

| No | 意見 |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について | |
| 01 | 自分の意見を言える、他人の意見を聞ける環境、クラス規模 |
| 02 | ある程度的人数がいる方がいい。(特に高学年) |
| 03 | 色々な考え方、価値観に触れる機会があれば良い。 |
| 04 | 集団の中で主体性をはっきりしてほしい。 |
| 05 | 意見交換ができる人数規模が良い。 |
| 06 | 多様な意見に触れる機会が多い方がいい。 |
| 07 | 最低でも1クラス20人はいた方がいい。 |
| 08 | 地域で育てたい⇔地域の少子化 望ましい集団規模と乖離 |
| 09 | 考えさせるスキル・見守るスキルが必要＝時間がかかる |
| テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 10 | 現場の先生の声を反映できる体制づくり。 |
| 11 | 大きい学校、小さい学校の差が大きい。 |
| 12 | 学校選択制にして行きたい学校を選べるようにしてほしい。 |
| 13 | 準備のいる教科→専科がいいかも |
| 14 | 心を育てる教科は担任が行う方がいい。 |
| 15 | 担任制について低・高学年で柔軟に対応すべき。 |
| 16 | まず生徒と子供との信頼関係を築いてから教科担任をしていただきたい。 |
| 17 | タブレット学習にしてもきちんと分かる先生の必要性 |

【小中学校保護者・学校関係者グループ】

| No | 意見 |
|------------------------------------|---|
| 小・中学校毎に、学習・生活集団規模など、各学校の状況に応じて意見交換 | |
| ○芳田小学校 | |
| 01 | 新入生が4人しかおらず今後に不安がある。 |
| 02 | 生徒数が少人数のため存続できるのか不安がある。 |
| 03 | 少人数ならではのきめ細かい教育ができる。 |
| ○重春小学校 | |
| 04 | クラス替えできるメリットある。 |
| 05 | 集団の中で子どもが強い人間に育つ環境にある。 |
| 06 | 1クラス40名近くいることで先生が目が行き届かないことがある。 |
| 07 | きめ細やかな教育があまりできていない？ |
| 08 | もう少し少ない人数のクラスの方がきめ細やかな指導が受けられるのではない？ |
| ○西脇南中学校区全体 | |
| 09 | 中学に入ると一緒になるため、小学校のときから重春・芳田の交流する回数を増やすことも必要 |

【地域代表グループ】

| No | 意見 |
|-------------------------------|------------------------------------|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について | |
| 01 | 社会性を養うためにも多人数クラスが良い。 |
| 02 | 1学級35人以下できれば30人以下が望ましい。 |
| 03 | 1学年複数学級クラス替えができること。 |
| 04 | クラス替えができる児童生徒数 |
| 05 | 学級数は1学年3クラスから4クラスが望ましい。 |
| 06 | 少人数より多い人数でもまれる教育 |
| 07 | 1学級30人規模が望ましい。 |
| 08 | 規模が小さすぎるのは子どもにとって良くない |
| テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 09 | 小学校＝英語専門の教師（外国人）学科専門の教員 |
| 10 | 学校の教員数がある程度（20人くらい）確保できる体制 |
| 11 | 教員の資質を高める取組が重要 |
| 12 | 先生に余裕を持たせる授業時間 |
| 13 | 学校で困っていることを保護者と共有する→一方的なクレームを言わない。 |
| 14 | 部活動は地域活動に→教職員の負担を減らす。 |
| 15 | 教員の持ち授業数を平均化するために小・中の教員交流を行う。 |
| 16 | 教科担任制が良い→研修機会も生まれるのでは？ |
| 17 | 小学校高学年の教科担任制がとれる教員規模の学校 |
| 18 | 義務教育学校の検討を進める。 |

第2回 西脇市立学校学習環境規模適正化地域会議（黒田庄中学校区） 意見概要

テーマ：①望ましい学習・生活集団規模について ②望ましい指導体制について

【A グループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各1～2名

| No | 意見 |
|--|--|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 01 | 2つの小学校共に、児童数が減少している。桜丘小は、どの学年も1クラス、10人～20人以下、楠丘小も、30人を割り込む学年が増えてきている。 |
| 02 | 小学校に教科担任制が導入されている。学校規模の大きい方が、教科担任制の導入効果は大きい。 |
| 03 | 小学校の学級担任制は、教員の指導力の差が顕著に出やすい。 |
| 04 | 中学校の学習はより専門的になる。個々の先生の担当する教科の専門性が必要である。 |
| 05 | 小中一貫教育においては、中学校の先生が小学校の授業を担当することも可能となる。 |
| 06 | 小学校低・中学年においては、子ども理解が十分できる学級担任制が望ましいのではないかな。 |
| 07 | 小学校では、集団生活や集団活動になじむことが重要である。子どもの発達段階に応じた指導形態、方法が必要である。 |
| 08 | 子どもに対する見方や評価が固定化しないためにも、学校に多様な先生方がいらっしやることが大切ではないかな。子どもにとって、多様な先生方との出会いは重要。 |
| 09 | 黒田庄地区は、地域の大人や年齢の異なる子どもたちの繋がりが強い地域である。大人も含めた人との出会いが豊かな地域である。 |
| 10 | 黒田庄地区の子どもたちの良さ（おぼこい子どもが多い）を大切にしてほしい。 |
| 11 | 小学校は、しつけを学ぶという要素が多いのではないかな。小学校高学年から中学校は、社会性を学び、幅広く勉強する時期ではないかな。発達段階に応じて、適切な集団規模があるのではないかな。 |

【B グループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各1～2名

| No | 意見 |
|--|---|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 01 | 少人数によるメリットもある。（先生との深い関わり） |
| 02 | 今後、更に子どもの人口が減少すると、学校統合を検討するべきではないかな。今後も減少傾向は続くと言われる。保育園は一つ。小学校で2つに分かれて中学校で一つになる現状がある。 |
| 02 | クラス替えがあったほうが良い。人間関係がリセットできないという課題有。 |
| 03 | 子どもたちの為にも、ある程度の集団規模を維持することは大切。 |
| 04 | 登下校の安全確保という面からも、児童数が減少することは問題。安全な登下校の確保は課題。 |
| 05 | 子ども同士の意見交換を必要とする授業であれば、少人数は課題がある。（多様な考え等に触れる機会） |
| 06 | 少人数によるメリットもある。（先生との深い関わり） |
| 07 | 体育大会・運動会における応援合戦等の行事は、縦割り班活動として多様な関わりを通して成長できる場である。 |
| 08 | 過度な児童数の減少は、学校行事の運営や教育効果から見て、課題もでてくるのではないかな。 |
| 09 | 黒田庄の魅力（教育の魅力）を発信する必要がある。 |
| 10 | 子どもの多様化から見れば、教員の指導体制や子どもの集団規模も多様な体制・規模に対応できるものであることが望まれる。（大きな集団・小さな集団の併用な可能な集団規模） |
| 11 | 地域学習という視点を入れて欲しい。（地域の良さ・地域のなりたち等） |

| | |
|----|--|
| 12 | 郷土愛を育む教育を望みたい。地域活動は、黒田庄中学校の地域の活動がモデル。 |
| 09 | 少子化が進行する地域。小中一貫教育への移行は、保護者から見て利点があるのではないかと思う。 |
| 10 | 中学校の部活動への対応。設置される部活動が減少している。(入部したい部活動の選択肢が少ない) また、学校の部活動に入部せず、クラブチームへの入部を希望するケースの多く生じている。 (東中と黒中との合同チーム、黒中だけでは対応できない例。) (小学校高学年児童の部活動参加等の検討等)・・・小中一貫校の魅力づくり |

【C グループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各1～2名

| No | 意見 |
|---|--|
| テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について | |
| 01 | 少人数だと顔ぶれが変わらないことで子供に幅がでない。 |
| 02 | 子どものためにはある程度の集団規模を維持するのが望ましい。 |
| 03 | クラス替えができる児童生徒数があるのが望ましい。 |
| 04 | 就学前の子どもがいるが、なぜ統合しないのかという思いがある。 |
| 05 | こども園→桜丘・楠丘→黒田庄中学校と小学校で2校に分かれるのであれば一つに統合した方が良いのではないか。 |
| 06 | 小中一貫校の方が保護者にしても利点があると思う。 |
| 07 | いろんな行事ごとが多いので、小中一貫教育の方が良いように感じる。 |
| 08 | 少人数だと部活動の影響が大きい。 |
| 09 | 小学の高学年が中学の部活動や大会に参加しているケースもある。 |
| 10 | 中学校で行いたい部活動がないため、他市や他地区へ通っている子もいる。 |
| 11 | 個人個人を大切にされた多様性のある教育を行ってほしい。 |
| 12 | 地域学習を取り上げてほしい。→郷土を支える人材 |
| 13 | 地域の特色を生かした授業を行い、郷土愛を育める教育をしてほしい。 |
| 14 | 特色を生かすのであれば、黒田庄としての魅力などの発信をすべきではないか。 |